

— 2020. 9. 1 —

# 月刊アンモナイト通信

*Monthly Ammonite Center Letters*



— Vol. 2, no. 9 —



表紙は阿武隈変成岩類の御斎所変成岩を構成する珪質片岩とその採取地点の写真である。採取地点は Hiroi et al. (1987)によってジュラ紀の放散虫化石が報告された露頭とほぼ同じ層準となる。阿武隈山地はその広さが南北約 200 km、東西約 60 km に亘る。山地は茨城県北東部から宮城県南部にかけて広がり、大部分は福島県東部地域に当たる。主に花崗岩類から構成されるが、山地南部には阿武隈変成岩類と日立変成岩類が分布する。いわき市の西部には、阿武隈変成岩類が広域に分布しており、これらは原岩や構造の違いにより御斎所変成岩及び竹貫変成岩と呼称される。阿武隈変成岩類の年代については長い間議論されてきたが、ジュラ紀の放散虫化石が報告された事により、西南日本から東北日本にかけて広く分布するジュラ紀付加体の一部である事が判明した。

Hiroi et al. (1987)によって御斎所変成岩中の珪質片岩から報告された放散虫化石は以下の通り

*Tricolocapsa?* sp.

*Archaeodictyomitra?* sp.

*Hsuum?* sp.

*Praeconocaryomma?* sp.

*Broctus?* sp.



図 1. 珪質片岩採取地点 (地理院地図に加筆).

これらの化石が産出した事で、御斎所変成岩の原岩の一部がジュラ紀の岩石である事は判明したが、他の地質体との比較は行われておらず、その詳細な年代は不明のままである。大上ほか (1978)や歌川ほか (2019)、歌川 (2020)で三疊紀放散虫・コノドント化石を含むチャート礫が上部白亜系及び古第三系から報告されており、常磐地域にジュラ紀付加体が分布していた事は確実である。また、安藤 (2005)や長谷川ほか (2020)の研究から後期白亜紀には北のサハリンから南は九州東部まで一連の堆積盆地が存在していた事が示されている。その堆積盆地の背後、つまり当時のユーラシア大陸側にはジュラ紀付加体が分布・露出し碎屑物を堆積盆地に供給していたはずである。中新世以降の日本海拡大とそれに伴う変動によって、地理的位置関係に相対

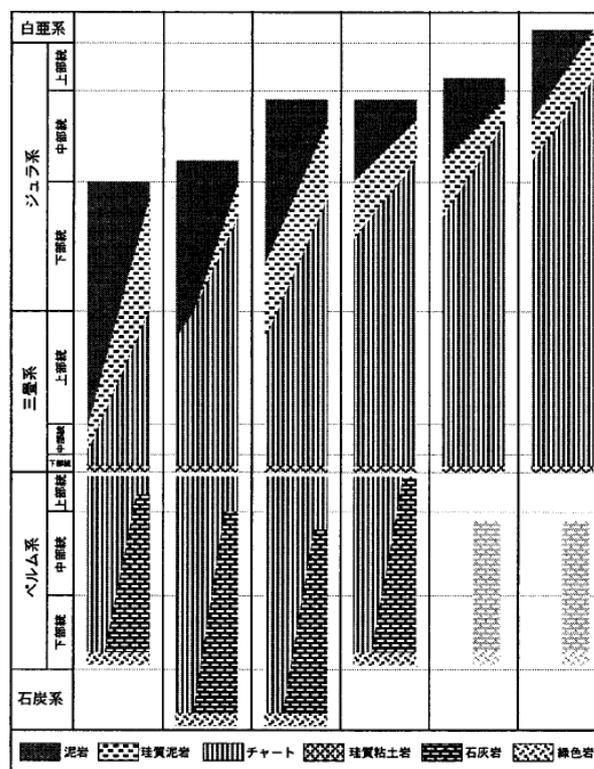


図 2. TMA 帯で復元された海洋プレート層序 (中江, 2000 より引用).

的な変化はあるものの、後期白亜紀の常磐地域には美濃—丹波—足尾 (TMA)帯ないしその延長部が露出していたと推定されているので (歌川, 2020)、御斎所変成岩の原岩も TMA 帯に属すると考えられる。西日本や関東のそれぞれの地域での TMA 帯内部の層序は良く復元されており (図 2)、年代も決まっている事から御斎所変成岩を構成する原岩の層序が復元できれば、これらの地域との対比が行える。御斎所変成岩の地質学的な位置付けが明らかとなれば、常磐地域ひいては日本列島地史の解明に大いに役立つであろう。

#### (参考文献)

安藤寿男, 2005. 東北日本の白亜系 - 古第三系蝦夷前弧堆積盆の地質学的位置づけと層序対比. 石油技術協会誌, 70 (1): 24-36.

長谷川遼・磯崎行雄・堤之恭, 2020. 破片化した過去の前弧堆積盆地—関東・南東北に散在する和泉層群東方延長の白亜系・古第三系砂岩—. 地学雑誌, 129 (1): 19-70.

Hiroi, Y., Yokose, M., Oba, T., Kishii, S., Nohara, T., and Yao, A., 1987. Discovery of Jurassic Radiolaria from acmite-rhodonite-bearing metachert of the Gosaisyo metamorphic rocks in the Abukuma terrane, Northeastern Japan. Journal of the Geological Society of Japan, 93 (6): 445-448.

中江 訓, 2000. 西南日本内帯ジュラ紀付加複合体の広域対比. 地質学論集, 55: 73-98.

大上和良・遠藤真哉・村田正文, 1978. 常磐炭田第三系礫岩中のチャート礫よりトリアス系コノドント化石の発見 (阿武隈高原東縁地域の礫岩の研究, その 2). 地質学雑誌, 84 (2): 87-90.

歌川史哲・上松佐知子・指田勝男, 2019. 福島県いわき市の古第三系石城層礫岩より産出した三疊紀微化石群集について. 日本古生物学会第 168 回例会, C01.

歌川史哲, 2020. 福島県いわき市の双葉層群足沢層のチャート礫より産出した三疊紀放射虫化石について. いわき市教育文化事業団研究紀要, 17: 7-14.

## 8月の行事報告

- ・ 体験発掘  
開催回数：回
- ・ 特別体験発掘  
開催回数：回



写真 1. 昨年度の親子自然探訪教室「不思議なキノコを探しにいこう！」の様子。

## 9月の行事予定

- ・体験発掘 (毎週土曜日・日曜日及び9月21日：10時～11時30分、13時30分～15時  
但し、雨天中止)

**当面の間**、一回の参加人数を**最大50人**とさせていただきます。

体験発掘参加時は軍手及び化石を入れる袋をご持参ください。

- ・第3回親子自然探訪教室「不思議なキノコを探しにいこう！」

9月22日10時～13時 (申し込みは9月21日17時まで)

- ・第4回親子自然探訪教室「秋の星座を見つけよう！」

9月22日17時15分～20時15分 (申し込みは9月21日17時まで)

- ・化石講演会「恐竜発掘の大冒険」

9月30日(水)13時30分～15時

講師：木村 由莉 先生 (国立科学博物館)

場所：いわき市立久之浜中学校体育館

新生代の哺乳類化石を研究する木村先生から化石発掘の面白さについて教えていただきます。目を見張る様な恐竜化石がどのように発見されてきたのか、興味のある方は奮ってご参加ください。

国立科学博物館の研究者紹介ページ:

<https://www.kahaku.go.jp/research/researcher/researcher.php?d=ykimura>

## お知らせ (重要！)

Notice!!

Notice!!

例年暖かくなりますと、軽装で発掘体験に来られる方が多くなります。HP や館内表示でもご案内しておりますが、体験発掘に参加される際は運動靴または長靴の着用をお願い致します。サンダル (クロックス含む) や踵の高い靴での体験発掘場への入場は安全確保のため、お断りしております。

皆さまのご理解とご協力をお願い致します。

## ボランティア募集

アンモナイトセンターでは、センターの活動を支援して下さるボランティアの方を募集しています。詳しくは、お電話・E-Mail、または職員にお声がけください。



いわき市アンモナイトセンター (Iwaki City Ammonite Center)

〒979-0338 福島県いわき市大久町大久字鶴房 147-2

TEL : 0246-82-4561 FAX : 0246-82-4468

URL : <http://www.ammonite-center.jp>

E-mail : [info@ammonite-center.jp](mailto:info@ammonite-center.jp)